

姫戸中学校 学校便り 令和2年4月21日 令和2年度 第2号

あした

朝あかね

文責 校長 切通 努



休校が続く、何とも言えない気分が続いています。しかし、今この状況で、誰かのために必死に命がけで取り組んでおられる方々が多数おられることに敬意を表したいと思います、そんな方々からすれば、休校の不自由などまだ楽なはずで、気を緩めることなく、何のための休校かを考えて生活しましょう。

休校前日に、今回の休校及び熊本地震についてお昼の放送時に校長講話を行い、その中で熊本地震関連教材『つなぐ』の『前へ』というお話を読みました。『前へ』の最後の一節「ふるさとを守るのは、何も特別な人ではないのだ。名もなき多くの人の思いが、行動の一つ一つが、あのときの熊本を救った。そして、名もなき私たち一人ひとりが、ふるさと熊本の未来を創り上げてゆくのだ。これからも、ずっと」とあります。まさしく、今、私たちが直面している困難にも当てはまるのではないのでしょうか。私たち一人一人の行動の一つ一つが人を救うことにつながります。未来を築きます。だからこそ、我慢です。その不自由さの中で、家でできる最大限のことに取り組んでください。例えば読書。「姫中 BOOKS」を持ち帰っていると思います。登校日に持ってきて新しい本と換えましょう。登校日以外の日でも学校に連絡すると対応します。どんどん読みましょう。

今後、先生方からのメッセージを紹介していきます。

野村英隆教頭先生より



ニュートンという科学者は、ペストという病気が流行し大学が休校になった1年半の間に故郷で「万有(ばんゆう)引力(いんりょく)」を発見したとのこと。誰もかれもがこんなことができるわけではないにしても、外出を控えている間に自分から学んでみたり、読書の幅を増やしたりできれば、それはこの休校で生まれた時間を有意義なものにできたということではないのでしょうか。時間つぶしに You Tube を見ている人も多いでしょう。今 You Tube を開くと、

裏面へ続く

家でできるトレーニングや料理、勉強などのおすすめチャンネルがずらりと出てきます。便利な世の中になったもんだとつくづく感じます。そういうコンテンツを参考にして、逆境をプラスに変えてほしいものです。

橋口智充先生より

インターネットを見ていたら、こういう言葉を見つけました。「Do what you can, with what you have, where you are.」「あなたにできることをしなさい。今あるもので、今いる場所で。」これは、第26代アメリカ大統領のセオドア・ルーズベルト氏の言葉です。今、休校中で家にいることが多いみなさんは何をして過ごしているのでしょうか。もちろん、ゆっくり過ごすのも良いと思います。しかし、今できること、今しかできないことを見つけて取り組んでみるのもいいのではないのでしょうか。学習に本気で取り組む（苦手分野をとことんやる。課題を丁寧にやる。予習を試みる。）、家の手伝いを毎日行う（料理を作る。掃除をする。家事を手伝う。）、趣味・特技に打ち込む（本をたくさん読む。ストレッチで体を柔らかくする。作詞・作曲をする。）、などなど。今あるもので、今いる場所で、自分にプラスになることを考えて、実行してみてください。きっと、いいことがあるはずですよ。



西村雄剛先生より

生徒の皆さん、休校により、自由に出かけられずストレスがたまっていると思います。だからといって、もし、夜更かししたりゲームやネットばかりしていたりするならもったいないですよ。朝から起きて、散歩やお手伝いなどをやってみたらどうでしょうか。行動することにより色々気づくことがあるかもしれませんよ。私は、休校の間も学校の環境の整備、見守りをがんばります。休校が明けて、皆さんが元気で学校に来ることを心から待っています。



学校ホームページ随時更新中。最新情報はこちらへ。「姫戸中学校」で検索。